

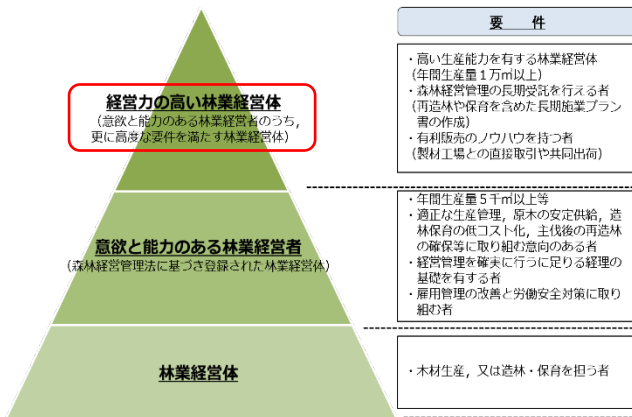
地域の森林経営管理を担う人材の育成に向けた取組

1 テーマの趣旨・目的

広島県では、農林水産業施策の5か年（令和3年度から7年度）の実行計画である「2025 広島県農林水産業アクションプログラム」に基づき、主伐後の再造林を確実に実施することによる安定的な木材生産と持続的な林業経営の実現に向けて、「森林資源経営サイクル（植栽→保育→間伐→主伐の一連の循環）」の構築に取り組んでいる。

その中で、各市町が主体となり、地域の森林資源の適正な管理・利用に向けた森林整備を進めていくためには、その担い手となる、将来を見据えた持続的な林業経営に取り組む「経営力の高い林業経営体」と人材を確保・育成していく必要がある。

◆経営力の高い林業経営体のイメージ



2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

(1) 現状

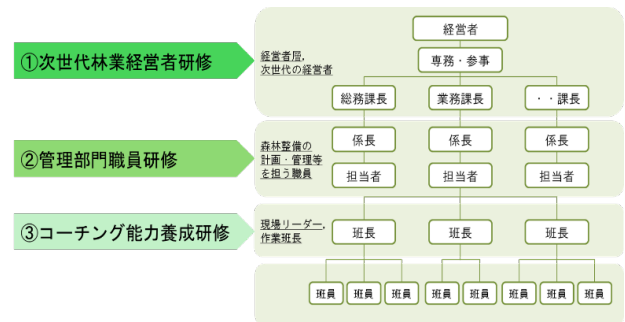
県内の林業経営体の多くは、経営管理や組織改革のノウハウが不足しており、中長期的視点での事業計画や経営戦略の検討が不十分な状況にある。

(2) 取組内容

持続的な林業経営に必要なとなる、経営ビジョンや経営戦略を描き実行に移せる人材を育成するため、林業経営体の各階層の人材に応じたマネジメント研修を実施した。

研修内容は、組織の階層を3区分に分けて、それぞれの立場や課題に合う研修カリキュラムを設定し、また、一方的な講義方式ではなくグループワークを取り入れ、受講者同士のコミュニケーションを活性化させ、主体的に取り組めるものとした。

◆研修区分と受講対象



①次世代林業経営者研修

対象者：林業経営体の経営者層、次世代の経営者

目的：経営の中長期ビジョン等に必要な知識を習得するとともに、持続的な林業経営を行うための具体的な方法等を習得する。



(講義風景)

②管理部門職員研修

対象者：森林整備の計画・管理等を担う職員

目的：集約化施業の企画提案(プラン書作成)や計画設計、現場管理に加えて、中長期の経営収支や森林整備の事業計画の立案等に必要な知見を習得する。



(グループワーク風景)

③コーチング能力養成研修

対象者：現場リーダー、作業班長

目的：林業現場における持続的な人材育成に必要なリーダーシップ・コーチング能力や課題解決能力等を向上させる。



(伐倒時の指導ポイントの説明)



(伐倒技術改善のコーチング練習)

(3) 成果

①次世代林業経営者研修

研修受講者及び中期経営計画策定経営体 (人・社)

	R2	R3	R4	R5	R6	合計
研修受講者	14	12	10	14	28	78
中期計画策定	2	2	3	2	2	11

受講者コメント (抜粋)

➤森林所有者の森林への投資意欲が低下している中で、経営体は主伐～再造林を行うため、より効率的でスムーズな作業によるコストの縮減を進める必要がある。

➤スマート林業の導入は生産性の向上や安全性の確保、人材不足の解消等多くのメリットがある。

②管理部門職員研修

研修受講者及び森林施業プランナー数 (人)

	R2	R3	R4	R5	R6	合計
研修受講者数	12	12	11	9	14	58
森林施業プランナー数 (延べ)	28	33	36	40	41	—
森林施業プランナー合格者数	0	5	3	4	1	13

受講者コメント (抜粋)

➤施業地をまとめるには、様々な情報を集め、森林所有者にとってわかりやすいアプローチをしなければならぬことが理解できた。

➤どの作業工程にコストがかかっているか等早期に把握することが重要で行動計画の可視化や現場作業者とのコミュニケーションを高めていくことが大切と思った。

③コーチング能力養成研修

研修受講者及び経営体数

(人・社)

	R2	R3	R4	R5	R6	合計
研修受講者	10	9	10	7	8	44
受講経営体	9	6	6	4	4	29

受講者コメント (抜粋)

➤受講者の多くが同じような悩みを抱えていることがわかり、それに対してのアドバイスを受けることができた。

➤指導する際は、相手をよく観察することが大事ということがよく分かった。

3 今後取り組むべき内容

これまでの取組により、中長期的な視点を有した経営戦略を描ける「経営力の高い林業経営体」を一定数育成した。また、主伐後の再生林や苗木生産、スマート林業技術の導入等、将来を見据えた持続的な林業経営に取り組む経営体が増えつつある。

一方で、主伐後の再生林率は3割程度と低位な状況にあるため、これまで育成してきた「経営力の高い林業経営体」が近隣の林業経営体を巻き込んで、自らが作成した中長期の経営戦略に沿って持続的な林業経営を実践できるよう継続的に支援し、主伐後の再生林を着実に進めていく必要がある。

このため、①持続的な林業経営を見据えた主伐後の再生林が実践されるよう、森林経営計画や事業計画の策定支援を行う。②再生林が着実に実施されるよう、主伐事業者と造林事業者とのネットワーク構築や、低コスト施業技術の導入支援を行う。③地域の森林の適正な管理に向け、市町が主体となった森林整備が進むよう、持続的な林業経営を実践するための人材の確保・育成に引き続いて取り組む。

